目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査（ヒグマ）

資料名	グリーンワーカー事業、斜里町ヒグマ管理対策事業、羅臼町ヒグマ管理対策事業 （知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務）報告書、斜里町ヒグマ管理対策事業業務報告書、羅臼町ヒグマ管理対策業務報告書
調査主体	環境省、斜里町、羅臼町
評価項目	7. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること
管理目標	人身事故の発生、及び、その他の観光利用・住民生活との軋轢を最小化する
モニタリング項目	観光利用・住民生活とヒグマとの軋轢の現状把握
評価指標	出没及び被害発生の状況
評価基準	出没数：現状を上回らないこと 被害：人身被害が発生しないこと、その他の被害は現状以下に

<平成20年度までの具体的調査手法>

ヒグマ目撃状況

ヒグマ出没状況は、随時ヒグマの目撃情報をアンケート形式で収集することにより把握した。アンケート用紙は、ヒグマを目撃した場所、日時、状況、個体の特徴等を記入するもので、知床国立公園の中にある主要な施設（知床自然センター、知床五湖レストハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター）に配置した。アンケートは知床財団職員が電話や口頭でヒグマの目撃情報を入手した場合や財団職員が直接ヒグマを目撃した場合にも起票した。

<平成20年度までの具体的調査データ例>

ヒグマ目撃状況

H20年度のヒグマ目撃件数は、斜里側750件（昨年度656件）、羅臼側75件（昨年度85件）の計825件であった。H19年度と比較し、羅臼側の目撃件数は減少しているものの、目撃件数は依然として高い水準にある。

目撃件数を地区別に集計すると、斜里側で最も目撃が多かったのは幌別・岩尾別地区の567件で、知床五湖園地地区45件、幌別川 - オペケプ川地区47件、イダシュベツ・カムイワッカ地区33件、知床連山登山道地区30件、知床横断道地区22件、知床岬地区6件となった。

羅臼側で最も目撃が多かったのはルサ - 知床岬地区38件であり、特に昆布浜、セセキおよび崩浜において目撃が頻発した。次いで湯ノ沢集団施設 - 知床岬地区22件、羅臼市街地北側 - 岬町地区15件であった。なお、ルサ - 知床岬地区のうち、相泊以北のエリア（相泊 - 知床岬）は、船舶を使わなければ立ち入りが困難な地区であるが、コンブ漁番屋やサケマス定置網漁番屋が多数立ち並んでおり、夏期には漁業者の出入りが多い。特に夏休み期間中には、子供を含む家族全員が番屋に泊り込み、昆布干し作業などを行っている。したがって、羅臼側では知床岬（赤岩地区）を含む町内全域において、人との軋轢を伴うクマの目撃が発生することが、斜里側と大きく異なる点である。

ヒグマ有害捕獲頭数は、斜里側1頭、羅臼側9頭の計10頭であった。

被害状況

H20年度のヒグマ対策活動件数（知床財団職員による追い払い、現地調査、有害捕獲等の対策活動）は斜里側409件（H19年度400件）、羅臼側56件（H19年度58件）の計465件であった。登山者が羅臼岳登山道上でヒグマに威嚇されて接触寸前となった事例や幌別川河口で釣り人がヒグマと至近距離で遭遇する事例、羅臼温

泉キャンプ場内でテントの一部がヒグマに破られて中にいた人がヒグマを蹴って撃退した事例、羅臼側の市街地で発生したヒグマが干し魚や塩漬けの魚を狙って物置や勝手口を破る事例等、人身事故に繋がりがねない危険な事例も確認された。

表 1 . 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地区別のヒグマ目撃件数

地区区分	目撃件数
斜里側	
幌別・岩尾別地区 小計	567
フレベの滝遊歩道	89
岩尾別川沿い	132
幌別川	46
国道・道道沿い	300
知床五湖園地地区	45
イダシュベツ・カムイワッカ地区	33
知床連山登山道地区	30
知床横断道地区	22
知床岬地区	6
幌別川-オベケブ川地区	47
小計	750
羅臼側	
ルサ-知床岬地区	38
羅臼市街地北側-岬町地区	15
湯ノ沢集団施設-知床峠地区	22
小計	75
総計	825

<コメント>

- ・フレベの滝遊歩道や知床五湖遊歩道、幌別川河口などでは利用者がヒグマと至近距離で遭遇する、ヒグマに追いかけられるといった人身事故に繋がりがねない危険な目撃事例が毎年のようにあり、人とヒグマの軋轢は依然として深刻である。
- ・利用者の安全確保とヒグマの保全を両立させるためには、従来のヒグマ対策活動の継続に加え、利用者の行動や利用をコントロールできる仕組みやルール作りといった知床国立公園の利用適正化を積極的に推進していくことが必要と考えられる。
- ・知床半島におけるヒグマ個体群を維持していく為、知床半島の斜里側、羅臼側の両側で統一的な対策を行うためのヒグマ管理計画の策定も必要と考えられる。

<評価>

斜里側の目撃件数のみ前年より 100 件程度増加したが、羅臼側の目撃件数およびヒグマ対策活動件数は H19 年度とほぼ同じ水準で推移している。